

1. 評価結果概要表

平成 21 年 2 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000523
法人名	株式会社 アイリスマーク
事業所名	グループホーム ふれあい～朝里
所在地	〒060-0152 小樽市新光1丁目2-20 (電話) 0134-54-6541

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年12月3日	評価確定日	平成21年2月2日

【情報提供票より】 (20年10月1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤	15人, 非常勤 11 人, 常勤換算 12.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 1～3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円			
その他の経費(月額)	光熱水費 16,000円 暖房費 6,000円 (11月～5月)			
敷 金	有 (45,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	215 円	昼食	350 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (12 月 3 日現在)

利用者人数	26 名	男性	3 名	女性	23 名
要介護1	1 名	要介護2	12 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三ツ山病院・小樽港南クリニック・本間内科・朝里病院・おきつ歯科・朝里整形外科内科病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営理念に掲げている「心と心・言葉と言葉・目と目・手と手のふれあい」を基本に家庭的雰囲気の中でその人らしい生活保持を尊重して日々の生活を支えている。医療体制も整備され、看取り介護の経験もあり馴染みの環境の中で安心感ある生活支援を熱意を持って行なっている。毎月発行の会報に「認知症Q&A」を掲載して家族や近隣に配布、また「介護なんでも相談所」として事業所の専門性を活用して地域貢献に努めている。外部者によるイベントを2ヶ月ごとに開催していて、イベント案内を地域の回覧で参加を呼びかけ地域の人と利用者の交流を図る機会を作るなど地域密着を目指して取り組んでいる事業所である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の取り組み課題の運営理念に「地域の一員として地域で暮らす」を明記して地域の中の役割を考え取り組んでいる。運営推進会議はメンバーに地域の人が増員が望まれる。災害対策は夜間想定訓練、避難訓練、連絡網に地域住民が参加するなどの仕組みを作ることに期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 3ユニットごとに職員が各項目について自己評価を行ないユニットリーダーを中心にして検討を重ね作成している。自己評価は気づきの機会と考え、また外部評価を外部からの目線の重要性和と捉え具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 民生委員、地域包括職員、隣接の福祉施設職員、家族のメンバーで2ヶ月ごとに開催している。事業所の運営の現状、利用者の生活状況、各種行事の報告、要望や問題提起、解決に向けて意見交換をして運営に活かしている。参加メンバーの協力により、事業所のイベントを地域に回覧できる取り組みを行なっているが、今後は運営推進会議の参加メンバーに地域住民が積極的に参加してもらえるように働きかけていくことを期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見、要望、苦情は家族会や運営推進会議で見出してもらい改善に努めている。家族訪問時は声かけをして気楽に話し合える関係作りをしている。家族会や運営推進会議を事業所の行事の日と連動して開催し家族訪問の機会を作り、意見を吸い上げ対応に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の総会に出席し、お祭、運動会、地域行事にも参加している。事業所の行事には近隣の人にも参加を呼びかけ楽しみごとを利用者と地域住民が共有する機会を多く作っている。幼稚園児、小学生のボランティア訪問もあり地域との連携を深めている。また会報に「認知症Q&A」を掲載、事業所を「介護何でも相談所」として地域貢献に努めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の一員として地域の中で暮らす」を運営理念に掲げ利用者と地域住民が「ふれあい」機会を多く作り共感共有しながら、その人らしい暮らしが継続できるよう支えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニットごとのミーティングなどで理念の確認をしている。全職員は理念をよく理解し、ケアサービスの実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、お祭、運動会、盆踊りなどに積極的に参加している。幼稚園児や小学生の訪問交流もある。事業所の行事には、近隣の住民に参加を呼びかけ楽しみを共有したり、会報「ホームドラマふれあい」を配布して、地域の一員として交流に努めている。		
mo					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	3ユニットごとに各自がケアを振り返り自己評価を行い、ユニット長を中心に会議を通じ話し合い確認している。全職員は自己評価を気づきの機会と考え、また外部評価を外部からの目線の重要性として捉え具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごとに開催して事業所運営の現状報告や行事内容などを議題として話し合い、出席者からの要望、疑問質問など情報交換や意見交換をしてサービス向上に反映しているが地域住民の参加が少ない。	○	運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な場であり、地域密着の観点からも多くの地域住民の出席が望まれるので、積極的に参加してもらえよう働きかけていくことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者とは利用者の実情に合わせた相談や事業所の諸問題に関わる相談で連携を図りながら、課題への解決に向けた取り組みが行なわれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行のホーム便りと一諸に利用者個々の生活の様子や健康状態を手書きのお便りで詳しく伝えている。家族の来訪時や電話連絡時にも報告して信頼を得ている。金銭管理の領収書は送付、出納簿は家族来訪時に承認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に要望、意見を伺える関係を築くよう努めている。家族懇談会や運営推進会議でも卒直な意見交換をして運営に反映している。事業所行事と家族会議を連動して多数参加できる取り組みを行なっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家庭的な馴染みの関係をベースに、ユニット間の移動は基本的に無くすよう配慮している。運営者は職員の働きやすい環境づくりに務め、職員の離職を抑える方策に積極的に取り組み、職員の定着率が高い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員のレベルアップを目指し事業所内の研修会や外部研修会に受講する機会の確保や参加への配慮をしている。資格取得受験の職員に対してサポート体制を整備し、介護職の質の向上に繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	統括事務長は小樽市グループホーム協議会の役員を務め、同業者との交流を深め情報交換を常に行なっている。地域間のネットワークの整備も確立され実践的連携に取り組んでいる。他の事業所間で職員交換勤務を取り入れ、サービスの質の向上に取り組む計画を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時はホーム長を中心に事前訪問を3回行ない、本人や家族と話し合い馴染みの関係を築いてから、事業所を見学して頂き安心してサービスの利用ができるように十分な工夫や配慮を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の関わりの中で一人ひとりの出来ること出来ないことを把握して、得意なことを尊重して支援している。調理や裁縫、生活の知恵など教えられることも多くあり人生の先輩として学んだり、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ふれあいの機会を多くしてコミュニケーションを図り、個々の思いや希望の把握に努めている。意志疎通の困難な場合も本人の立場に立った視点で把握に努めている。また家族から情報を得てフロアー会議で検討をして、本人本意の支援を行なっている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回ケアプラン検討会議を開催して本人、家族の意見や要望を反映しながら、地域の中でその人らしい暮らしの継続の為に具体的なプランが作成されている。新しい利用者は暫定的に2週間以内のアセスメント、ケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は短期3ヶ月、長期6ヶ月で見直しを実施している。日常生活の出来事も職員間の情報交換で把握できるため状態変化時も現状に即した見直しを随時おこなっている。ケアプランが日常動作調査表（日々の記録）と連動した記載の工夫を行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じ買物、通院、理美容室、ドライブなど送迎支援を臨機応変に対応して利用者の生活の継続に努め、多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月2回の往診のほか、かかりつけ医の受診時には職員が付き添い医師との連携を図っている。歯科や整形外科、24時間対応の医療機関との協力体制も確保して、適切な医療を受けられるように医療体制を整え支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緊急対応、ターミナルケアに対する同意書を作成して本人や家族の意向を確認している。協力医師と連携を密に図り、事業所でのターミナルケアの経験もあり、重度化や終末期に向けた方針を全員で共有して取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー確保についてミーティングなどで確認し合い、利用者への言葉遣いや対応に十分な配慮をして支援が行なわれている。記録等も利用者の目に触れないように気配りし、個人情報に関しては細心の注意を払い、管理、保管の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のその日の体調や情緒の状態を把握して無理強いせず、ゆったりとした気持ちで過ごせるように個々の意思を尊重し希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは利用者の希望も取り入れられ、職員の管理栄養士がカロリーのチェックを行ない、嚥下困難な利用者にはトロミ使用の配慮をし支援している。食事の準備や片付けは利用者の力量に応じ行い、職員と共に食事する事が喜びや楽しみの時となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回以上の入浴支援が行われ、同姓介助の配慮もしている。長時間の入浴希望の利用者には体調に考慮しながら希望に即した見守り支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	棒体操、手芸、しりとり、トランプ、本の読み返し、配膳、下膳など役割や楽しみごとの場面をつくり、一人ひとりが力を発揮したり楽しんだりできるよう職員も一諸に行ないながら気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の希望に応じて近隣の散歩、買い物、外食会、ドライブ、地域の行事の見学や参加など戸外に出る機会を多くつくり、気分転換が出来る外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は施錠はせず小さなスズをつけて利用者の動向を捉え安全面に配慮している。外出傾向のある利用者には、職員が常に目配りして付き添い一諸に歩いて対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力による避難訓練や自主訓練を行っているが事業所だけの訓練で地域住民が参加しての訓練は実施されていない。連絡網も事業所内のメンバーで構成されている。	○	災害時に備え避難訓練や連絡網に地域の人々が参加するなど、地域住民の協力体制を築くことが求められる。また夜間想定での避難訓練を実施することも望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録して把握している。職員の管理栄養士がカロリーのチェックを行ない、栄養のバランスに配慮した支援をして入る。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファや食卓テーブルがあり利用者はそれぞれ落ち着く居場所が確保されている。壁には季節感ある作品や写真が掲示されている。居室入り口の飾り棚には個々の思い出の品が飾られていて、共用空間で居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具、仏壇など本人の大事にしている品物や馴染みの調度品が持ち込まれ、その人らしい部屋になっていて本人が安心して過ごされるように配慮している。		

※  は、重点項目。